

7 パフォーマンス報告

— 環境 41

基本的な考え方

グローバルマネジメント

環境側面の重要課題

気候変動・エネルギー問題への対応

資源の効率利用

— クリーンな大気の保全

その他の重要課題

環境関連データ

安全 67

品質 79

人材 96

サプライチェーン 118

社会貢献活動 135

クリーンな大気の保全

Hondaは、「クリーンな大気の保全」をめざし、製品の使用段階におけるテールパイプからの排出ガスの有害物質の削減に努めています。

二輪車においては、市販車すべてのエンジンの4ストローク化を完了し、全世界で販売する機種の80%以上が、PGM-FIを適用しています。

四輪車においては、世界で最も厳しいとされるカリフォルニアのLEV※1 3排出ガス法規において2013年に発売した「アコード ハイブリッド」からSULEV※2 30を達成し適用モデルを順次拡大しました。「アコード プラグインハイブリッド」は世界に先駆けSULEV20を達成しました。また新興国でも排出ガス規制が適用・強化されていますが、Hondaは、アジア・中東の国々においてそれらの排出ガス規制強化に先行して対応を進めています。

パワープロダクツにおいては、エンジンの改善技術により世界で最も厳しいUS EPA※3 Phase3規制を触媒なしでクリアし対応を完了しました。

また、Hondaは「クリーンな大気の保全」をめざし、とくに大気への影響が大きい生産領域での大気保全の取り組みを進めています。

自動車の生産においては、塗装工程で使用する塗料やシンナーに含まれる溶剤成分が光化学オキシダントの原因となるVOC※4の発生につながります。これまでHondaの生産領域では、ロボットによる高効率塗装の導入、洗浄用シンナーの見直しや回収率向上、VOCを燃やして浄化処理する装置の導入などでVOC排出の削減を進めてきました。こうした取り組みに加え、環境取り組みのベンチマークである寄居完成車工場では、従来の4コート3ベーク溶剤塗装から中塗り工程を廃止した3コート2ベーク水性塗装「Honda Smart Ecological Paint」を導入し、VOCの発生自体を削減。現在はこの最先端技術をグローバルの四輪車工場へ水平展開していく取り組みを進めています。

日本においては、一般社団法人日本自動車工業会で設定した目標に準じて2010年度のVOC排出量原単位を管理値に定め、そこからの自主削減を

進めており、2010年より目標を達成しています。Hondaは今後もこの自主削減の取り組みを継続していきます。

※1 LEV: Low Emission Vehicle (低排出ガス車)の略。

※2 SULEV: Super Ultra Low Emission Vehicle (極超低排出ガス車)の略。

※3 US EPA: United States Environmental Protection Agency (米国環境保護庁)の略。

※4 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)の略。

